



発刊のことば



若葉が初夏の日差しに輝く令和6年5月26日、天皇后
両陛下の御臨席を仰ぎ、岡山市のジブアリーナ岡山
を式典会場として「晴れの国 光で育つ 緑の心」を
大会テーマに、第74回全国植樹祭を開催いたしました。

今大会は、式典会場とサテライト会場であるGREENable
HIRUZEN(真庭市)を合わせて、県内外から約5,700人
の参加をいただいたほか、インターネットでの配信や
ラジオでの生中継を通じて多くの方々に視聴いただ
いた中で、予定していたプログラムを滞りなく終えるこ
うことができました。

式典では、天皇陛下におことばを賜ったほか、両陛下
には、県の木として広く県民に親しまれているアカマツを
はじめ、少花粉ヒノキ、少花粉スギ、本県にゆかりの
あるクロガネモチ、アテツマンサク、キクザクラをお手植え

いただくとともに、少花粉ヒノキ、少花粉スギ、ヤマザクラ、
イロハモミジをお手播きいただきました。

式典のアトラクションでは、本県出身の作家、あさの
あつこさんが書き下ろした「この緑に抱かれて」を
原作に本県の高校生たちが、さまざまな議論や体験を
通して自然と人との関わり方について考えていく様子
を、演劇を中心に音楽やダンス等を交えて展開し、
岡山の森林をより豊かに未来に引き継ぐ新たな
決意を力強く発信しました。

今後は、大会開催で高まった身近なみどりや森林
への想いを一過性のものとすることなく、県民の緑化
意識のさらなる醸成を図るとともに、少花粉苗木に
よる植替えを強力に促進するなど、「伐って・使って・
植えて・育てる」という林業のサイクルを活性化させる

ことにより、豊かな森づくりに積極的に取り組み、みどり
あふれる郷土を次の世代に引き継いでまいります。

本誌は、第74回全国植樹祭の感動の記憶を
後世に伝えるとともに、今大会を通じて発信された
メッセージについて、広く知っていただくきっかけとなる
ことを願い作成しました。より多くの皆様に御覧いただ
ければ幸いです。

結びに、今大会の開催にあたり多大なる御支援、
御協力を賜りました多くの皆様に心から感謝を申し
上げ、発刊のことばといたします。

令和7年2月

第74回全国植樹祭岡山県実行委員会会長

岡山県知事 **伊原木 隆太**

目次

	発刊のことば	01
	開催概要	04
	式典会場	06
	前回大会の様子	07
第74回全国植樹祭岡山2024		
式典・プロローグ	招待者入場	09
	当日の情報発信	10
	都道府県代表者等記念植樹	11
	プロローグ	12
記念式典	プロローグアトラクション	13
	感謝状贈呈	15
	記念切手贈呈	16
	天皇皇后両陛下御到着・御臨席	17
	開会のことば	19
	国歌独唱	20
	主催者あいさつ	21
	天皇陛下のおことば	23
	表彰	25
	苗木の贈呈	26
式典・エピローグ	天皇皇后両陛下お手植え	27
	天皇皇后両陛下お手播き	29
	代表者記念植樹	31
	メインアトラクション	32
	大会宣言	36
	リレーセレモニー／閉会のことば	37
	天皇皇后両陛下御退席	38
	エピローグアトラクション	39
	ECO&MOK ハレひろば	41
	出演者紹介	43
作品御覧・御懇談	作品御覧	49
	御懇談	50
	サテライト会場	51
関連行事	第52回全国林業後継者大会おかやま2024	53
開催までの取組		
機運醸成	カウントダウンボードの制作と除幕式	55
	「木製地球儀」巡回展示	57
	全市町村参画による記念植樹	58
	苗木の育成体験(ホームステイ・スクールステイ)	59
	苗木の育成・引渡し	63
	地域植樹	64
	周期イベント	65
	機運醸成の取組	66
	広報活動	67
	第74回全国植樹祭岡山県実行委員会	69
式典準備	出演者練習風景	70
	リハーサル・知事直前現場レクチャー・係員説明会等	71
	会場整備	75
	式典木製品	77
	式典木製品等の制作風景	79
	大会参加記念品・大会用品等	81
	広報用品	84
	協賛者紹介	85
開催後の取組		
資料編	苗木の定植／記念事業	87
	メモリアル展示	88
	木材の再利用	89
		90

開催概要

開催意義

本県は、みどり豊かな中国山地に3つの河川(吉井川、旭川、高梁川)が源を発し、良質で豊かな水をたたえながら吉備高原、岡山平野を経て、風光明媚な瀬戸内海に注いでおり、みどりと水に恵まれた環境の中で多様な自然が育まれています。こうした多様で身近な自然は、生物多様性の保全やレクリエーションの場の提供、木材の生産など、私たちの快適な生活に欠くことのできない大切な役割を担っています。

また、県土の約7割を森林が占めており、生産量国内トップクラスのヒノキを始めとする豊富な森林資源を活用し、「伐って・使って・植えて・育てる」という林業のサイクルを循環させることで、県民共有の財産である岡山の森林をより良い姿で次の世代に引き継いでいかなければなりません。

こうした中で、令和6年に開催する第74回全国植樹祭は、多様な主体が一体となり、森林を始めとするみどり豊かな自然を守り育てる取組等を推進することにより、森林の持つ公益的機能の確保はもとより、近年、その重要性が再認識されている二酸化炭素の吸収源である森林の役割や、持続可能な形で資源を利用する「循環経済」の加速化など、未来に向けて、人と森林の理想的なかかわりへつなげていけるよう、岡山ならではの特色ある有意義な大会とします。

開催理念

私たちは、第74回全国植樹祭の開催を通じて、「豊富な森林資源の循環利用」を進めるとともに、森林の持つ公益的機能の確保に努めます。

また、県民一人ひとりの緑化意識のさらなる醸成を図り、豊かな自然を守り育てるための県民運動を拡大する契機とし、みどりあふれる郷土を未来の子どもたちへつなぐまいります。併せて、本県の歴史・文化など数多くの魅力を全国に発信します。



開催概要

大会テーマ

晴れの国 光で育つ 緑の心

全国から応募があった1,444点の作品の中から選定しました。

作者 おおすみ はんな
大隅 絆成 さん(岡山市北区)

制作意図 岡山は晴れの国だから光を使った。育つのは緑にも心にも使えるから両方育てばいいなと思ひその願いをこめた。

シンボルマーク

全国から応募があった471点の作品の中から選定しました。

作者 みやかわ ちはる
宮川 千明 さん(岡山市北区)

制作意図 ももっち、うらっちの足元の輪を繋げることで、「循環」「人・活動のつながり」を表現。2人の服装は緑を基調に動きやすい格好にした。背景の桃にサンバースト(太陽光線)をあしらうことで、晴れの国のイメージも足して岡山らしさを出した。



大会ポスター原画

県内の小学校・中学校・高等学校及び特別支援学校から応募のあった615点の作品の中から選定しました。

作者 にしやま ここな
西山 心和 さん(浅口市)

画題 みんなで育てるハートの木

制作意図 晴れの国と太陽とやさしさでハートの木を大きく育て、みんなが幸せになれるといいなという思いをこめた。



式典会場

開催日・主催・会場

開催日 令和6年5月26日(日)

主催 公益社団法人 国土緑化推進機構
岡山県

会場 ●式典会場
ジップアリーナ岡山(岡山市)
●サテライト会場
GREENable HIRUZEN(真庭市)



式典会場

式典会場となる「ジップアリーナ岡山」は、JR岡山駅から約1.5kmの岡山県総合グラウンド内に位置し、メインアリーナやサブアリーナを備え、ガラス面を多く採用し、木材を椅子、床、壁面に使用した明るく開放的で温かい雰囲気のある体育館です。

岡山県総合グラウンドの園内には約3,200本の木々が四季折々の姿で県民の心を和ませ、また、式典会場に隣接する総合グラウンドクラブ(旧岡山偕行社)は岡山県を舞台にしたNHK連続テレビ小説『カムカムエヴリバディ』で使用されました。



ジップアリーナ岡山



式典会場



総合グラウンドクラブ(旧岡山偕行社)

前回大会の様子



昭和42年4月9日、金山山頂(岡山市)において、昭和天皇、香淳皇后をお迎えし、「拡大造林と環境緑化」を大会テーマに、第18回全国植樹祭を開催しました。

当日は、あいにくの荒天となり、開催規模を約200人に縮小(晴天時は13,000人を予定)して実施されました。会場の御野立所(天幕)の中で、昭和天皇、香淳皇后はアカマツを鉢にお手植えになりました。

また、翌4月10日、蒜山地域(旧真庭郡川上村)において、昭和天皇はアカマツを、香淳皇后はヒノキをお手播きになりました。



アカマツをお手植えされる昭和天皇



お手植えされたアカマツ



お手植えの苗木の移植(4月17日:池田 厚子 さん)



お手播きされる昭和天皇と香淳皇后(蒜山地域)



記念碑

第74回全国植樹祭岡山2024

令和6年5月26日[日]



招待者入場

岡山駅から岡山県総合グラウンドの間はシャトルバスを運行しました。また、シティライトスタジアムでは招待者の受付を行いました。



岡山駅西連絡通路



シャトルバス乗車



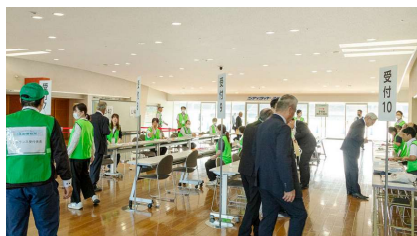
岡山県総合グラウンドへバス到着



シティライトスタジアムへ向かう招待者



シティライトスタジアムでの受付の様子



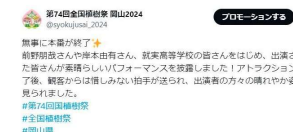
入場検査の様子



式典会場へ向かう招待者

当日の情報発信

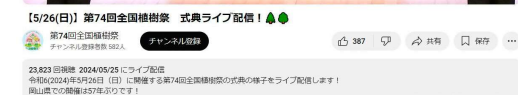
YouTubeのライブ配信やRSKラジオの生中継、サテライト会場との双方向中継を行ったほか、SNSでの情報発信を行いました。また、NHKで全国放送されたほか、報道機関向けの会場見学会開催など事前・当日のPR情報の発信を行いました。



Xでの発信



ラジオ生中継



YouTubeでの配信



サテライト会場との双方向中継



報道機関向け会場見学会



取材台

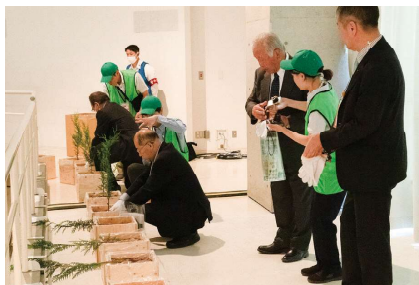
都道府県代表者等記念植樹



都道府県代表者等は、式典会場2階で、式典開始前に天皇陛下のお手植えと同じ樹種（少花粉ヒノキ・少花粉スギ）の植樹を行いました。都道府県代表者等植樹木は、アフター地域植樹等において定植地に植樹し、本県の森づくりに活用しました。



植樹前の様子



植樹する招待者



植樹する招待者



植樹後の様子



植樹する出演者

プロローグ



開催市長あいさつ

開式にあたり、開催市を代表して、ご挨拶申し上げます。本日、天皇后両陛下の行幸啓を賜り、第74回全国植樹祭が開催されますことを、誠に光栄に存じます。

ご来賓をはじめ、全国各地からお越しいただきました皆様、ようこそ岡山市へおいでくださいました。心から歓迎いたします。

岡山市は、日本三名園のひとつである岡山後楽園、一昨年にリニューアルオープンした岡山城、5世紀初頭では全国最大とも言える造山古墳等の豊富な歴史・文化資産があり、高い評価をいただいているところです。

市域全体の約45%を占める森林は、木材の生産のみならず、市民の憩いの場の提供、水資源を蓄え育む水源かん養、二酸化炭素吸収による地球温暖化防止、生物多様性の保全など、多様な機能を有しており、私たちの生活に欠くことはできません。

本市では、健全な森林の育成や循環社会の形成のため、昨年9月にグランドオープンした岡山芸術創造劇場（ハレノワ）において、内装に県産木材を活用するなど、公共建築物等への県産木材の利用促進を積極的に行っております。

このたびの全国植樹祭を契機として、多くの皆様に森林の大切さについて理解を深めていただくとともに、豊富な森林資源の循環利用を一層進め、豊かな森林の緑をより良い姿で次世代に繋いでいけるよう努めてまいります。

最後になりましたが、開催にご尽力賜りました関係者各位に深く感謝申し上げますとともに、国土緑化運動の発展と、ご来場の皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げ、ご挨拶といたします。



岡山市長 大森 雅夫



式典進行役



式典会場

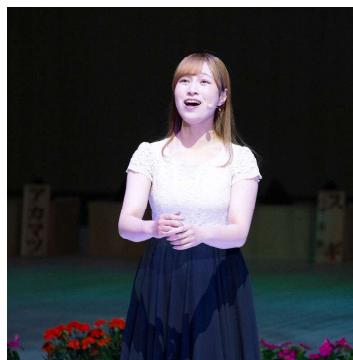


取組紹介

プロローグアトラクション ～森林の軌跡～

アトラクションは、岡山県の高校生たちが自然と人の関わり方について、さまざまな議論や体験を通して、これからの姿を考えていく様子を、演劇を中心に音楽やダンス等を交えて展開しました。

プロローグアトラクションでは、岡山の森林について興味を抱き、その未来への想いが芽生える過程を表現しました。



演劇

- 原作
あさの あつこ『この緑に^{いだ}抱かれて』（書き下ろし作品）
- 台本・演出
中島 諒人（鳥の劇場 芸術監督）

アトラクションテーマ曲

- 作曲
米倉 由起（くらしき作陽大学 准教授）
- 編曲
浅井 暁子（金沢大学 准教授）
- 作詞
第74回全国植樹祭岡山県実行委員会（作詞協力：石川 幸子）

晴れの国おかやま 豊かな光が優しく包む
輝く光がはぐまれ みどりが生まれる
人は森林に問いかける
森林は答え問い返す その営みのはるかさ
私たちはこれまでも これからもともに
手をひろげ 手をつなぎ生きていく森林と



感謝状贈呈

第74回全国植樹祭の大会テーマ、シンボルマーク、大会ポスター原画の作者に感謝状が贈呈されました。



大隅 絆成 さん（大会テーマ作者）



宮川 千明 さん（シンボルマーク作者）



西山 心和 さん（大会ポスター原画作者）



記念切手贈呈

日本郵便株式会社から第74回全国植樹祭の開催を記念した、ふるさと切手「国土緑化（岡山県）」の初刷りが贈呈されました。



日本郵便株式会社 代表取締役社長兼執行役員社長 千田 哲也 さん

ふるさと切手 「国土緑化（岡山県）」

デザインには「第74回全国植樹祭」のお手植え・お手播き樹種のほか、開催地である岡山県の特産品である果物を採用しています。

この記念切手は、令和6年5月22日（水）に全国の郵便局で一斉に発売されました。



記念切手を披露する伊原木知事



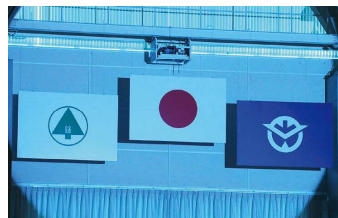
開会のことば



公益社団法人 国土緑化推進機構
副理事長 前田 直登



岡山市ジュニアオーケストラ



国土緑化推進機構旗・国旗・岡山県旗

国歌独唱



海上自衛隊東京音楽隊 2等海曹 三宅 由佳莉 さん





大会会長あいさつ

国土緑化推進機構会長 衆議院議長 額賀 福志郎

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、第74回全国植樹祭を開催するに当たり、主催者として御挨拶を申し上げます。

まず、本年1月に発生した能登半島地震により、石川県を中心とする各地が未曾有の被害に見舞われています。また、ここ岡山県も、近年の記録的な豪雨により、大きな被害を受けました。これらの災害によりお亡くなりになられた方々に深く哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

本大会は、「晴れの国 光で育つ 緑の心」をテーマに、温暖な気候と多様な自然に恵まれた岡山県で、57年ぶりに開催されます。

森林は、我々の生活を多面的に守り支える多くの機能を有しています。自然災害が頻発し、地球温暖化などの環境問題が深刻化している今日、その役割はますます大きくなっております。また、戦後に植林された人工林が本格的な利用期を迎える中で、木材の積極的な利用を図る必要性が増しております。

岡山県では、森林を県民共有の財産として、より良い姿で次世代に引き継いでいくため、平成16年度に県独自の「おかやま森づくり県民税」が創設されました。この県民税を活用し、森林・林業を支える担い手の育成や、県産材の利用促進、県民参加による森づくり活動の推進などに取り組んでおられると聞き及んでおります。また、ヒノキをはじめとする豊富な森林資源を活用した品質・性能の優れた製材品の生産や、我が国初のCLTの量産工場の稼働など、木材産業も盛んな地域であり、この地で全国植樹祭が開催されますことは、まことに意義深いことであると存じます。

本日、栄えある表彰をお受けになる方々に対し、心から敬意を表しお慶び申し上げますとともに、御参集の皆様には、今後とも緑化推進への一層の御尽力をお願い申し上げます。

結びに、本大会開催のために尽力された岡山県の皆様をはじめ関係者の方々に厚く御礼を申し上げ、御挨拶といたします。



岡山県知事あいさつ

岡山県知事 伊原木 隆太

挨拶に先立ち、本年1月に発生した能登半島地震で、亡くなられた方々に心から哀悼の意を表しますとともに、ご遺族と被災された方々にお見舞いを申し上げます。

本日ここに、天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、本県では57年ぶり、2回目となります第74回全国植樹祭を開催できますことは、岡山県民にとりまして、この上ない喜びであります。

また、大会会長の額賀衆議院議長、坂本農林水産大臣をはじめとするご来賓の皆様、全国各地からご参加をいただきました皆様に、岡山県民を代表して心から歓迎を申し上げます。

そして、本大会の開催にあたり、多大なご支援をいただきました関係の皆様にも深く感謝申し上げますとともに、本日、栄えある表彰を受けられます皆様に、心からお祝いを申し上げます。

平成30年7月豪雨災害に際しましては、上皇上皇后両陛下に被災地へのお見舞いやご視察を賜り、被災者の方々への温かい励ましのおことばをいただくとともに、全国の皆様から多くのご支援をいただきました。改めて厚く御礼申し上げます。

岡山県は、県北部には緑豊かな中国山地、南部には多島美に恵まれた美しく穏やかな瀬戸内海が広がっていることから、多様で身近な自然と触れ合いながら、潤い豊かな生活を送ることのできる地域です。また、古くから中四国地方の交通の要衝であった本県は、瀬戸大橋をはじめとする縦横に延びる高速道路網や新幹線をはじめとした鉄道網など、全国でもまれに見る交通基盤が充実した地域であり、世界を視野に入れた陸海空の広域交通網のクロスポイントとなっています。

また、県北の美作地域を中心とした県北部で製材加工された製品は、古くから美作材と呼ばれ、広く全国に流通するなど、本県は西日本有数の木材集積・加工地として発展してまいりました。しかしながら、木炭から石炭、石炭から石油へ移行するエネルギー革命により、私たちの生活は便利になりましたが、木材の利用は徐々に低下し、人工林は樹齢を重ね、花粉の飛散が社会的な問題となっております。これに対し本県では、林業生産活動を通じた林業サイクルを循環させるとともに、林業の成長産業化と森林の適正な管理を進めることで、少花粉スギやヒノキの植替えを強力に推進し、次世代へつなぐ森づくりにも積極的に取り組んでいるところでです。

大会テーマである「晴れの国 光で育つ 緑の心」とおり、この植樹祭を契機に、県民一人ひとりの緑化意識のさらなる醸成を図り、豊かな自然を守り育て、みどりあふれる郷土を未来の子どもたちにつないでまいります。

結びに、天皇皇后両陛下のご健勝とご多幸、皇室の限りないご繁栄を心からお祈り申し上げますとともに、ご出席の皆様方のご多幸、ご発展を祈念申し上げまして、私の挨拶といたします。





初めに、本年1月に発生した能登半島地震により亡くなられた方々に改めて深い哀悼の意を表しますとともに、御遺族と被災された方々にお見舞いをお伝えいたします。今後、被災地の復旧と復興が順調に進んでいくことを心から願っております。

第74回全国植樹祭がここ岡山県で開催されるに当たり、全国から参加された皆さんとともに出席できることをうれしく思います。

岡山県においては、昭和42年に「拡大造林と環境緑化」をテーマに、岡山市にある金山^{かなやま}山頂で第18回全国植樹祭が開催されました。当時の会場は、現在、昭和天皇と香淳皇后がお手植えになったアカマツを始め、多くの参加者によって植えられた木々が立派に育ち、山々を緑に染める風景を岡山市街地から望むことができると聞いております。

岡山県では、緑豊かな中国山地に源を発する吉井川^{よしいがわ}、旭川^{あさひがわ}、高梁川^{たかはしがわ}の3つの河川が、良質で豊かな水をたたえながら、吉備高原や岡山平野を経て瀬戸内海に注いでおり、こうした環境の中で多様な自然が育まれています。現在では「木を伐って・使って・植えて・育てる」という林業のサイクルを循環させる取組が推進されるとともに、花粉の少ない少花粉スギやヒノキへの植替えが進められるなど、森林が守り育てられていることを喜ばしく思います。

また、森林から生産される木材は、昔から住宅などの建築物を始め、家具や食器など様々なものに使われており、私たちの暮らしに欠かせないものとなっています。こうした恵みをもたらす森林を、健全な姿で未来の世代に引き継いでいくことは、私たちに課せられた大切な使命であると考えます。

本日表彰を受けられる方々を始め、それぞれの地域において日頃から森林や緑を育てる活動に尽力されている全国の皆さんに敬意を表し、そうした活動が、今後とも多くの人々によって支えられながら、更に発展していくことを期待いたします。

終わりに、循環型の木材の利用や健全な森林づくりの輪が、ここ岡山の地から全国へ広がり、そして将来の世代へとつながっていくことを願い、私の挨拶といたします。

表彰

令和6年用国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール、令和5年度緑化功労者、令和5年度全日本学校関係緑化コンクール、岡山県緑化関係表彰の各受賞者代表へ表彰状が贈呈されました。



受賞者代表のみなさん

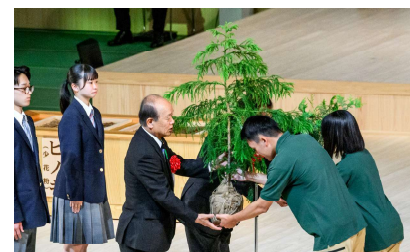


受賞者のみなさん

苗木の贈呈

岡山県立勝間田高等学校で林業を学ぶ生徒により大切に育てられた苗木が、坂本哲志農林水産大臣や八木哲也環境副大臣に贈呈されました。

贈呈された苗木は天皇后両陛下のお手植えに合わせて植樹していただきました。



天皇皇后両陛下お手植え



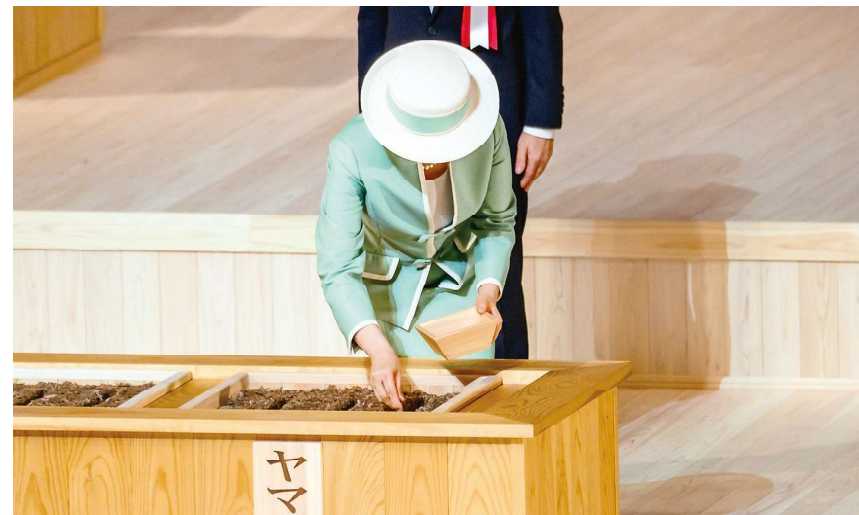
天皇陛下はアカマツ、少花粉ヒノキ、少花粉スギを、皇后陛下はクロガネモチ、アテツマンサク、キクザクラをお手植えされました。



天皇皇后両陛下お手播き



天皇陛下は少花粉ヒノキ、少花粉スギを、皇后陛下はヤマザクラ、イロハモミジをお手播きされました。お手播きされた種子から養成した苗木は、岡山県が管理・育成し、県内の公共施設等に「記念樹」として配布します。



代表者記念植樹



天皇皇后両陛下の2本目のお手植えに合わせて、招待者の代表の方々による記念植樹が行われました。



メインアトラクション ～森林への想い～



岡山の森林を、いかににより豊かに未来へ引き継ぐかを考えてきた生徒たちの新たな決意を力強く表現しました。



メインアトラクション ～森^{もり}林への想い～





公益社団法人 国土緑化推進機構
理事長 濱田 純一



西本 遼人 さん(左)・小嶋 日彩 さん(中央)・三村 彩子 さん(右)

大会宣言

第74回全国植樹祭は、岡山県岡山市のジップアリーナ岡山を式典会場として開催され、「晴れの国 光で育つ 緑の心」が大会テーマとして掲げられた。

先人たちのたゆまぬ努力により豊富な森林資源が育まれたことに深く感謝するとともに、その資源を有効に活用しながら、新たな緑の循環を進め、健全で豊かな森林を未来に引き継いでいくため、次のことに重点を置いて、緑化運動のさらなる展開を図ることを宣言する。

- 私たちは、森林が持つ多様な機能と、SDGsやカーボンニュートラルに果たす役割について、社会全体で共有し、森林を守り育てる取組を一層進めます。
- 私たちは、暮らしの中で木材の積極的な利用と適切な植林を通じて、「伐って、使って、植えて、育てる」という森林資源の循環利用を推進します。
- 私たちは、森林・林業や木材利用について、一層の知識と技術の習得に努め、森林・林業・木材産業の未来を切り拓きます。

令和6年5月26日

第74回全国植樹祭

リレーセレモニー ／ 閉会のことば



21世紀最初の開催地となった山梨大会から開催県に引き継がれている全国植樹祭のシンボル「木製地球儀」を伊原木 隆太 岡山県知事から大野 元裕 埼玉県知事にリレーしました。



次期開催県知事あいさつ 埼玉県知事 大野 元裕

挨拶に先立ち、本年1月に発生した能登半島地震で、亡くなられた方々に心から哀悼の意を表しますとともに、ご遺族と被災された方々にお見舞いを申し上げます。

本日、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、第74回全国植樹祭がここ岡山県岡山市において開催されましたことを心からお祝い申し上げます。

来年の全国植樹祭は「人・森・川 つなげ未来へ 彩の国」をテーマに埼玉県で開催します。

式典会場は、秩父市と小鹿野町にまたがり、秩父地域の豊かな自然に恵まれた「秩父ミュージズパーク」です。

埼玉県の森林は、奥秩父などの原生林、山地や丘陵地のスギ、ヒノキなどの人工林、都市近郊のコナラなどの平地林、といった多彩な姿を見えています。

森林は生活に深く結びついており、例えば、三富地域では平地林を活用した世界農業遺産の伝統農法「武蔵野の落ち葉堆肥農法」が、今も受け継がれています。

また、県内を流れる荒川や利根川をはじめとする豊かな河川は、主要な水源として生活や産業を潤すとともに、物流などにも用いられ、人々の生活をつないできました。

来年の全国植樹祭は、森林・水・木材と私たちの暮らしとの結びつきを再認識し、豊かな森林を次の世代へつないでいく大会といたします。

皆様のお越しを心からお待ち申し上げ、御挨拶といたします。



閉会のことば 岡山県議会議員 久徳 大輔

本日、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、「晴れの国 光で育つ 緑の心」を大会テーマに開催いたしました第74回全国植樹祭は、滞りなく無事終了することができました。

全国各地から大会に御参加いただきました多くの皆様、ならびに関係各位の御協力に心から感謝を申し上げまして、閉会のことばといたします。

本日は誠にありがとうございました。



天皇皇后両陛下下御退席

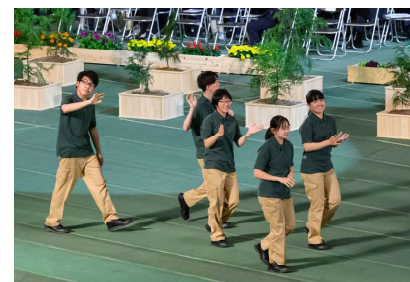


エピソードアトラクション ～豊かな森林を次世代へ～



「おかやまフォレストーク」では建築家・隈研吾さんからメッセージをいただくとともに、森林や木材と様々な関わりのあるパネリストがそれぞれの魅力ややりがい、課題等を語り合いました。

「グランドフィナーレ」では出演者全員が登場し、未来へ向けた力強いメッセージと歌唱で、感動共鳴のフィナーレを迎えました。





式典エリアと隣接した場所に展示PR会場を設置し、県内事業者等の環境配慮製品・技術・取組や森林・林業・木材関連の製品・技術・取組などの発信と交流の機会を創出しました。

